

Apple Town

Fresh Information for Your Best Life

6

2022 June

No.382

www.apa.co.jp

ビッグトーク
作家 百田尚樹 × アパグループ会長 元谷外志雄

異民族に支配されて いないから日本人は 国防意識が甘い

BIG TALK

Author Naoki Hyakuta × Chairman, APA Group Toshio Motoya

Citizens Lack Awareness of National Defense Because Japan Has Never Been Ruled by a Different Ethnic Group

好評連載 藤 誠志の社会時評エッセイ

平和を守りたければ、 戦争の準備をせよ

[Essay on Today's Japan] Text by Patriotic Essayist Seiji Fuji (Toshio Motoya, Chairman, APA Group)
To Maintain Peace, Prepare for War

Best Life[ベストライフ] タレント・元WBA世界ライトフライ級王者 具志堅用高
流行ブレイク烈伝 メーカーズシャツ鎌倉 プレミアム・ピュアホワイトシャツ
スーパー企業最前線 株式会社WithGreen



アパホテル
(なんば心斎橋東)
APA-HOTEL
(NAMBA SHINSAIBASHI HIGASHI)
06-6121-9411

2022年4月12日オープン

大阪メトロ堺筋線・長堀鶴見緑地線「長堀鶴見駅」(7番出口)徒歩2分、大阪メトロ御堂筋線・長堀鶴見緑地線「心斎橋駅」(6番出口)徒歩6分

1Fレストラン
YAKINIKUEN 忍闘

達人

File No.206

東京皮膚科
形成外科
総院長

池

田

欣

生



池田 欣生 Yoshio Ikeda

大阪医科大学卒業。大阪白壁美容外科顧問の田嶋定男元教授、十仁病院顧問の谷野隆三郎元教授の元で形成外科の研鑽を積み、日本形成外科学会の認定医を取得。2000年に銀座・いけだクリニック(現在、東京皮膚科・形成外科)を開設。「美容医療は統けないと意味がない。美容室感覚で通える良心的価格の美容医療を提供したい」という理念のもと、安全で安心の美容医療の普及に尽力する。2023年 111回 日本美容外科学会(JSAS)学会長、日本アンチエイジング外科学会 理事長、医療アートメイク学会 理事長、ミセスSDGs ジャパン 理事。
<https://www.251901.net/>

アニメとの出会いを持つ原動力に

「親が開業医をしていたので、幼い頃から漠然と医者になりたいとは思っていました。ただ、小学校時代に『銀河鉄道999』と出会って、宇宙とヒロインのメーテルに憧れを抱くようになってしまったんです。宇宙への憧れから純粹に物理学者になってUFOを作りたいと思ったのですが、しませんサラリーマンではどんなにUFOを開発をしても給料はあんまり貰えないと親に説得されまして、それでUFOは諦めました。ただ、もう一つメーテルへの憧れが残っています。メーテルのような美しい人をつくりたいし、永遠の命にも興味がある。そうした想いを抱えたまま医学部に進学しました。

ただ、医学部に入つてそうした夢を語ると、浪人して進学した年上の人たちから『親が開業しているんだから、そんな夢語つてないで継げばいいじゃないか』と、まるで子ども扱いされてしまうんです。親は内科医として高血圧の研究をしていて、病院もそれなりに繁盛していたんですね。ただ、患者さんに血圧を下げる薬を出しているイメージしかなかった。根本を治していないやないかと。だったら自分は治せる仕事がしたい。だから内科を継ぐつもりはなかったんです。

もう一つ、保険診療について思うことがありました。個人で病院を経営している人たちは、みんなすごい借金をして、人生をかけて経営しているんですね。保険制度は素晴らしい仕組みだけれど、国の政策が方向転換すれば、結果的にみんな苦しむようになる。皆さん、医師として尊敬するけれど、自分はそうはなりたくないなというのがあって、それで自費診療を考える

内面も外顔も総合的に 若々しくあるための医療を追求

ようになったのです。すると当時の選択肢は大きく分けて二つしかありませんでした。婦人科の不妊治療、癌の終末期医療、そして美容外科です。このとき、美容外科とメーテルがつながったんですよ。美容外科に進むとしても、どこに就職しようかと真剣に考えていましたとき、大阪の北新地の飲食店でものすごく綺麗な女性に出会ったのが大きな縁でした。周りからは『あいつ整形だから』と悪口を言っていたのですが、僕は整形であつても綺麗なほうがいいじゃないかと純粋に思えたので、その女性にどの病院で施術してもらったのか、主治医を教えてもらつたんです。それが、大阪白壁美容外科でした。すぐに訪問してみたら、当時そこで顧問をしていた田嶋定男教授に出会い、「日本である程度の美容外科医にならないと世界に相手にされないから、まずは日本で形成外科の認定医の資格を取つて修行を積みなさい。そのあとは俺がなんとかしてやる」と言われて、それで大阪医大にて、その先生のもとで働くことになったのです。

一方、親は病院を赤字経営していたので、その借金を返すのを手伝わなければという思いから、親の病院へアルバイトに行き、病院の一室を借りて美容クリニックを始めました。それが全ての始まりです。実は銀座に来たのも、銀座で開業していた内科の先生が赤字で困っているということで、同じように一室を借りて始めたのがきっかけでした」

そして外見を気にするとき、世界共通で第一位が髪の毛、第二位が肌なんです。だから肌も極めたいと。いう思いから、東京皮膚科という名前になりました。人は歳を取れば脳の中がだんだん詰まっていくんですね。そして私の親は、八十歳のときに健康診断で『よくこんな脳で医者やつているね』と言われ、それがショックで医者を辞めました。それって未来の僕らでもある訳です。例えば七十歳まで生きて血管が詰まつて、そのあと十年間、寝たきりになることが普通にある。だからこそ、血管再生の教授なども雇つて、自分たちが脳梗塞になつたときに備えるような技術を身につけるといふのも、今の目標の一つです」

「まだアンチエイジングという言葉もない当時、ホルモ

ン補充療法で若返ることが書かれたアメリカの論文に出会い、衝撃を受けました。ぜひ自分もやりたいと思つたのですが、点滴療法なので外科じゃなくて内科なんですね。師匠には怒られましたが、やはり自分は医者だから、総合的に全部診たいという思いがあります。

見た目の問題はルッキズムだと批判されることもありますが、僕としては内面を若くするということも大事にしています。二十代や三十代の夢や希望を、諦めずに持ち続ける内面も大事なんですよね。ただ、内面がどんどんに若くても、外見が年寄りでは一致しない。だから両方やりたいということで、そのための医学を必死で研究しています。



[達人の真髄]

「陰徳あれば陽報あり」